

ユーザー訪問 アイランド薬局田口町店(群馬県前橋市)

「ミスゼロ子」に残る履歴を分析し、ヒヤリハット報告にも活用

群馬県前橋市にあるアイランド薬局田口町店では、2016年12月の開局以来、(株)クカメディカルが開発した調剤過誤防止ピッキングシステム「ミスゼロ子」を導入。ヒヤリハット報告にも活用し、調剤ミス防止に成果を上げている。

相談・説明に意欲的なスタッフ

アイランド薬局田口町店は、アポロメディカルホールディングス(株)(本社:東京都豊島区)が運営する店舗の1つ。同社は北海道から兵庫県まで全国に100店舗を超える調剤薬局を運営。「健康フェア」などを通して、地域の健康づくりにも貢献している。アイランド薬局田口町店は、丘の上に立地する循環器病院に近接していることから、処方箋の大半はこの病院からのもの。同病院には循環器科のほか、さまざまな診療科があり、薬剤も多彩な領域のものを扱っている。処方箋応需枚数は1日に約150枚、備蓄医薬品は約1,100品目。常勤薬剤師7人(うち非常勤1人)、事務員6人(非常勤1人)のスタッフで薬局業務をこなす。



アポロメディカルホールディングス(株)関東ブロックマネージャーで、アイランド薬局田口町店の管理薬局長を務める舟橋智裕氏

同社の関東ブロックマネージャーで、同店の管理薬局長を務める舟橋智裕氏は、「診察や検査で疲れている患者さんやご家族が多く、なるべく早く薬を渡せるように、仕事の効率化を図ることが不可欠です」と語る。

その一方で、限られた時間の中でも、薬剤や検査結果などについて相談を受けたり、説明したりすることも大切にしており、患者が何か問題を抱えていると感じた時は、積極的にコミュニケーションを図るように指導しているという。同店ではこうしたコミュニケーションに意欲を持っている薬剤師がそろっており、「スタッフに恵まれている」と舟橋氏は話す。

データをもとにミス防止策を検証・実施

「ミスゼロ子」を導入したアイランド薬局田口町店では、同システムのハンディ端末をピッキング時はもちろん、監査台にも常置し、活用している。舟橋氏は「ヒューマンエラーを防止し、GS1コードの自動更新までしてくれる、この優れたシステムを使わないという選択肢はありません」と言い切る。長年頭を悩ませてきた問題が、「ミス



ピッキング時(上)に加え、監査台にハンディ端末を置き、照会専用として使用。右の端末画面(イメージ)にある『既』は、2回薬品バーコードをスキャンしていることを示す。(画像提供:クカメディカル)



ゼロ子」の導入で、一気に解決したからだという。スタッフからも「自動分包機による一包化では、コンベア品の調剤ミスをも防ぐことが可能。システムとしての完成度が高く、非常に信頼できる」との声が上がる。

また、「ミスゼロ子」は、ピッキングする薬剤や集薬した薬剤のバーコードなどの単票をジャーナルプリンタ(別売)で印刷することができる。そして、いったん読み取ったバーコードのデータを手動で消すことは原則としてできず、履歴として残る仕組みになっており、「この履歴が重要」と舟橋氏は指摘する。

「ピッキングした薬剤に間違いがあれば、『ミスゼロ子』が教えてくれるので、患者さんに被害が及ぶことはありません。しかし、その間違いが起こった背景があるわけで、それを検証し、今後の防止策を講じることも大切です」

こう強調する舟橋氏は「ミスゼロ子」に残された履歴データを集計し、ピッキングでミスがあった事例を抜き出して分析し、会社に提出するヒヤリハット報告に活かしている。

「過去のミスを分析すると、薬剤名やパッケージがそっくりで、間違いやすい製品があることがわかります。名称が似ている薬剤は、近くの棚に置いてしまいがちなのですが、あえて棚の位置を変えるなどの工夫が必要です。絶対にミスをしないという人間はいませんから、システムを活用してミスを減らすことが大切。その上で、『ミスゼロ子』によって得られるようなデータを活用して、どのようなミスが起きているのかを常に検証する必要があると思います」

舟橋氏の取り組みは、「ミスゼロ子」に十分な機能が備わっていることで実現できたものだといえる。アポロメディカルホールディングスでは、今夏までにすべての店舗で「ミスゼロ子」を導入する予定だ。

